

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272500511		
法人名	NPO法人 流山ユー・アイ ネット		
事業所名	グループホーム わたしの家		
所在地	千葉県流山市西深井176-1		
自己評価作成日	平成31年2月15日	評価結果市町村受理日	令和元年5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成31年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ホーム開設から18年目を迎える。経験豊かな職員を軸に中堅、新人が混在し、職場の環境は昨年より変化している。職員は、様々な困難な事例を乗り越えて経験を積んでおり、誇りと自信をもって働いている。</p> <p>現在、桂棟は利用者9名。昨年は利用者が3名入れ替わりがあった。桂の利用者は、毎日体操、散歩、レクなどに積極的に参加し、明るく元気に楽しんでいる。</p> <p>利用者も職員も一緒に活気づいている。また、AI機器の介護『眠りスキャン』を導入し、利用者個々の睡眠状況や、看取り期の利用者の方の状態の把握に役立っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者は職員と協力し、介護ロボットの導入など新しい取り組みをしている。利用者個々の状態把握に役立っており、職員の作業軽減にもつながっている。ホームは施設をしない方針であり、見守りを徹底することで利用者を支援している。また、入浴はできるだけ家庭での生活に近づけたいとの思いから、夕方から入浴することとしており、ほぼ毎日入浴できるよう配慮している。また、重度化や看取り対応の指針を整備しており、看取りの時期が近くなった時には管理者からその旨を家族に説明し、看取りケアについて話し合いをしている。また、看取りにおいては家族が宿泊できるように環境を整えている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心」「尊厳」「信頼」の3つの理念を職員全員が共有している。	理念に照らし合わせてケアを行うよう努めており、個人を尊重することを大切に声かけ方法を工夫している。また、利用者に「安心」と「信頼」を得てもらえるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日散歩するので、近所の方々が声をかけて下さったり、野菜を下さったりしてくれる。	自治会に加入し、敬老会やゴミ拾いに参加して地域の一員として交流をしている。ホーム開催の秋祭りには、近隣の住民や子どもたちの参加があるなど、地域との交流を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム連絡会や認知症地域支援推進委員会を定期的に開催したり、アルツハイマーデーの催しや、市と協力して流山初の高齢者見守り声かけ訓練に参加予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回開催し、現状報告や地域との意見交換や行事を兼ねて食事会に参加していただいている。	グループホームとデイサービスの合同で年6回開催している。現状報告に割く時間が多く、参加者による意見交換の時間が少なめに感じる。	課題を定義して意見交換するなど、会議を活用してさらなるサービスの向上につなげることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	流山市介護支援課の地域密着担当者に色々と相談できるようになっている。グループホーム連絡会にも参加して下さる。	市の担当課や地域包括支援センターとは密に連絡を取りあっている。「認知症地域支援推進委員会」「市高齢者見守り声掛け訓練」「認知症医療と介護つむぐ会」等、市の主催する催しにも積極的に参加して情報を得ようとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束はしない」という開設当初からの信念に基づき、職員も理解している。	年間研修計画に「虐待防止・拘束禁止」を組み込んでいる。「身体拘束適正化のための指針」を基に、3か月に1度委員会を開き現状を把握し、会議記録を作成して認識を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行ったり、日々のニュース等で取り上げられる事件の度に互いに注意するような空気がある。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は、成年後見制度の研修機会を設けなかったが、家族からの相談に応じ、制度を取り入れた利用者はいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に2時間以上かけて説明を行っているが、その後も必要に応じて随時理解、納得できるまで話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が4か月に1度開催され、提案等も受け入れ、今年は家族の連絡網をメール連絡に切り替えた。	家族会など意見を聞く場を設けており、家族の意見からメールを連絡のツールとして取り入れた。メールのやりとりにより、意見を吸い上げやすくなった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングやコミュニケーション、又職員会議の中で、出る提案は出来る限り実施してもらうように心がけている。	管理者は職員が意見を言いやすい環境を整えるように心がけており、ユニット会議で話し合いをして、反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や能力に応じて、給与に評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行ったり、外部研修があった場合は再度グループホーム内で研修したり、働く中で互いに向上心を持ってケアの研究をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	流山市グループホーム連絡会で互いの相談をしている中で、良いと思うケアを取り入れたりしている。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接により、本人の情報や家族の状況等を職員全員で共有している。入居後は、極力本人との関わりもち、安心信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、これまでの詳しい経緯を確認している。その中で出来るだけ家族の立場に立って共感するように努めている。こまめに報告し、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に家族と面談し、十分な心情を聞くようにしている。最も心配なことや不安なことを聞き、家族の立場に立って共感するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の意志を尊重している。職員の一方的な選択、支援にならない様に心がけている。職員と共に日常生活が自然に築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族の訪問を歓迎し、本人と共に一緒に時間を共有している。家族は本人と一緒に外出をして、外食をする方も2名いる。家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的にホームに訪れハーモニカの演奏で全員で歌って楽しんでいる。又、植木の剪定、花壇の手入れなど支援をいただいている。又、元利用者の娘さんが定期的に清掃ボランティアで室内を清掃して下さる。	家族、知人、友人などの訪問を歓迎し、これまでの関係継続を支援している。ホームには元利用者の家族もボランティアとして来訪しており、入居者と交流している。年賀状を出す支援なども行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、利用者同士の相性の良い関係が固定化しない様に随時様子を見ながら声かけをして対応している。時々、利用者同士が関わり合っている様子も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事情があっても他施設に移られてもその後の状況が気になることもあり、家族に連絡をとったりする事もある。又、相談を受ける場合もある。ご本人が亡くなっても納涼祭には毎年来て頂き関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちを理解し、希望に沿ったケアをしたいと常に心がけている。現状では、介護度が上がり意志決定や気持ちを理解する事が難しくなっている。	利用者の思いや意向は入浴、散歩などの個別のケアの中で聞き取ることが多い。把握した内容は職員間で共有している。重度化が進む中でコミュニケーションが難しくなっている利用者も増えてきており、家族から情報を得ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族にセンター方式シートを渡し、分かる範囲で記入して頂いている。又、事前の聞き取りも行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体で利用者個々のこれまでの生活歴を尊重している。その上でその人らしい生活を出来るだけ維持できるように皆で方法を考えながら実践している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を面会時や会話の中から拾い上げて、ケアプランに反映するようにしている。	介護計画は、利用者の希望や面会時に聞き取った家族の意向、カンファレンスで話し合った職員の意見や記録などを基に計画作成担当者が作成している。見直しは6か月ごとに行い、職員間の共有を図り、その人らしい生活の支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の行動や言葉、職員との会話、又は気づきなどをケース記録に記入している。又、その情報において職員は常に共有している。これらの情報や記録はケアプランにも参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアで月に1回のペースでハーモニカ演奏に来てもらっている。唱歌や懐かしい歌が多く、皆さんは元気いっぱい大声で歌い活気があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の主催する催し事などに参加しているが、行ける方が限られてきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医による訪問診療と月2～3回の訪看で健康管理を行ってもらい、必要に応じて病院への受診をしている。又、家族の希望により入居前のかかりつけ医の方もいる。	ホームでは月2回の訪問診療と月3回の訪問看護で利用者の健康管理を行っており、24時間対応の医療連携もできている。また、週1回訪問歯科と歯科衛生士の訪問もあり、診察や口腔ケアを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月第1, 3, 5水曜に訪看があり、入居者の健康管理や相談を行っている。又、24時間医療連携体制があるのでいつでも電話で相談できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、サマリーを渡している。入院中や退院時に関しては、病院の医療連携室のソーシャルワーカーさんと連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にその旨の説明を行い、ある程度の意向を尋ねているが実際に元気な方はイメージがわからないようで、その状態に近づいた時に本格的に話し合いが始まる状況である。	重度化や看取り対応の指針を整備している。食事の摂取が困難になった場合や眠りの時間が長くなった場合は、ホーム長からその旨を家族に説明し、看取りケアについて話し合いをしている。また、看取りにおいては家族が宿泊できるように環境を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、会議の時やその可能性のある状況の時に随時確認するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回実施し、日中・夜間想定で各1回ずつ行っている。	今年度の災害訓練は年度末に午前午後に分け、日中と夜間対応で地震が原因の火災訓練を予定している。近隣の住民とは協力体制ができている。また、備蓄として米、水その他、卓上コンロ、防災頭巾、ランタン、簡易トイレなどを用意している。	

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人としての尊厳と人格を尊重し理解したうえで、ありのままを受け止めている。プライバシー保護や言葉遣いについても十分理解し気をつけている。	ホームの理念の一つは「尊厳」であり、職員は理解した上で利用者の支援に努めている。トイレ誘導などの声かけは周りに配慮し、不適切な言葉遣いにはホーム長やリーダーがその都度注意をしており、時には職員同士で注意し合う事もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望の発言や行動の表現がある場合は、できる限り寄り添って相談にのっている。その上で自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝は毎日元気にラジオ体操をしている。その後は散歩、庭で外気浴、のんびりTV等自己選択でその日に決めている。食事前には、ボールや風船等で遊んで明るく声が弾み、大いに楽しんでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在では自己選択で着替えが出来る人は限られているが、出来る限り自己決定が出来るように支援している。男性は毎日髭剃りを怠らず又、2ヶ月に1度は訪問美容でカットをし、リフレッシュしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体力や個々の能力を理解の上でできるだけ食事の準備に関われるよう心がけている。歩ける人には食事を取りに来てもらい食後は下膳後洗ってもらっている。献立表も利用者の方が書き読み上げている。	毎日の献立は管理栄養士の職員が立てている。時には利用者が食べたいものを聞き取って、献立に組み込んだり、今年の新年会ではホームで作った弁当を公民館に持ち込んで楽しんだ。食事の時間は食べることに集中できるようテレビを消し、音楽を流している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は管理栄養士が栄養バランスに十分気をつけている。その人の状態を考慮し、食べやすいように工夫をしている。水分量も毎回提供時には飲み切るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず歯磨き又は口腔ケアを行っている。毎週木曜日には、訪問歯科によって口腔のチェック、ケアも行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを24時間チェックシートに記入し管理している。おむつ使用の利用者もトイレで坐位が保てる限りトイレで排泄できるように支援をしている。又は、その人のタイミングを活かして声かけをしている。	日中は基本的にトイレでの排泄を支援している。職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけするとともに、仕草や落ち着かない様子などが見られた時に声をかけている。定時誘導でパットの使用量が減った利用者もおり、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士は、献立に食物繊維を多く含む食事を提供している。便秘の原因にも十分理解し、ヨーグルトや牛乳なども日々取り入れている。又、運動も毎日ラジオ体操や散歩を日課としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度化している方の入浴については、2人体制をとっている。その為に入浴日は決めている。その他の方は希望に沿って入浴ができています。	ホームでは毎日湯を沸かし、一日おきの入浴支援を行っている。時間帯も利用者の生活習慣を考慮し、夕方に支援している。入浴したくないという利用者には無理強いせず、タイミングや声かけを工夫するなど対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の休息は、一人ひとりの状態を見ながら随時声かけをして対応している。夜間の入眠は、安心して入眠が出来る様に声かけと環境づくりに気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴や薬の目的、副作用について認識が出来ている。管理と観察は慎重に努めている。薬が変更になった場合も記載、伝達を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特に役割は決めていない。その時に出来る人に公平に行っている。その人の生活歴や体調、体力を考慮しながら随時考えながら楽しめる様に支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、毎日散歩や庭で外気浴をしている。歌ったり、談笑して楽しんでいる。時々、家族と一緒に外出される方もいる。	玄関は施錠をせず、出たい時にはいつでも出られる環境を作っている。毎日ホームの周りを散歩する利用者があり、職員が見守っている。天気の良い日には散歩に出るようしたり、外食や墓参りなど個別の希望には、家族の協力を得て支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、お金を所持している方もいる。お金を持って買い物に行く事はないが、認知により、時々所持金の保管場所が分からず、一緒に探したり支援することもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛に宅急便が届き、お礼の電話をかけて近況等を伝えている事が時々ある。又は、家族に伝えたい事などがある場合に電話をかける人もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入るとすぐ横に金魚の水槽を置いている。利用者はいつも金魚の様子を見ながら話題作りになっている。行事の写真や書道の作品を展示しており、話題作りにも活用している。観葉植物や季節の花を飾り心地よい空間にしている。	事務所を中心に2つのユニットに分かれており、フロアはそれぞれ工夫が見られる。フロアは広くゆったりしており、ソファなども置いて寛げるようにしている。定期的に元利用者の家族がボランティアで掃除にも来ており、気持ちよく過ごせる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルの他、数ヶ所にソファを設置。自由に腰かけ出来る様に椅子も置いている。TVを観たり、音楽を聴いたり、陽だまりの場所で語らいをしたり、居眠りをしたり、自由に過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具の設置は、本人の好みや家族の意向もあるので家族と相談のうえで行っている。又、トイレなどの時に歩きやすい様に動線なども考慮している。	各居室にはタンスや鏡台、テレビなどの家具や写真が持ち込まれている。職員は家族と相談しながら、利用者の身体状況を考慮し、動線を考え家具を配置している。居室はどこも掃除が行き届いていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来ることはなるべく自分でやっていた。できない場合は、自然体でサポート。自信を失くさない様に本人の気持ちに添って生きがいもてる様に支援している。		

【評価機関】